

## 駿河ほねほね回報告

佐々木彰央

本団体は「頭骨以外の骨からでも同定できる骨格標本ライブラリの作製と新たな展示手法の開発ートガリネズミ目、ハリネズミ目」を2016年4月から笹川科学研究助成を受けて取り組んでいます。

前回、報告したコウベモグラの骨格は撮影と整理が終わり、完成した画像を基に日本動物学会中部支部大会と、日本哺乳類学会で講演及びポスター発表を行いました。学会参加者からは「このような画像データベースが見たかった」、「自分の研究にも役立てたい」、「骨の特徴を基に検索表も作製するべき」など多くの意見を頂きました。そして、11月11日からはWeb上で骨格標本ライブラリー「<http://mshakio10.wixsite.com/suruga-hone-hone>」を開設し、翌日には閲覧数が100件を超えました。研究機関との協力は、標本作製時に保存していたカワネズミのDNAサンプルの肉片7検体を信州大学に、ヒメヒミズ15頭を帯広畜産大学に提供及び貸出し、生物地理学の研究と、骨格形態の研究に活かされています。

新たな展示手法の開発は、日本平動物園で県内のモグラの仲間全種の剥製と全身骨格標本、説明パネルを使い、「静岡のモグラの仲間展」を開催しました（写真）。展示期間は11月1日～8日の1週間で、来園者は17,276人でした。その内の61人がアンケートに答えて下さり、「大変満足」が35人、「満足」が19人、「普通」が7人、「不満・大変不満」0人でした。さらに来園者からは、「このような展示を他にも見たい」、「身近な生き物の企画展をもっと開催して欲しい」、「トガリネズミの標本のあまりの小ささにびっくりした」などの感想・要望がありました。今後の展示予定は11月19日～1月8日まで「ふじのくに地球環境史ミュージアム」のミドルヤードにて、1月19日～2月20日まで「富士山樹空の森」にて開催します。

標本作製は前回に引き続き、9月11日、10月16・30日、11月13日に約8名で、行いました。以下に参加者のコメントを掲載します。

・高山達子「ミズラモグラの肋硬骨を担当したのですが、13対しかありませんでした。コウベ



日本平動物園で開催した「静岡のモグラの仲間展」

モグラやヒメヒミズは14対です。どこかになくしてしまったのかと焦りましたが、何故かミズラモグラだけ13対で正解でした。」

・馬越初美「気を抜くと細く分かれている背骨の部位がバラバラになってしまい順番がわからなくなってしまうので、針金を通し慎重に作業を進めました。モグラはずんぐりしていて外見からでは首があるかさえよくわからない体型なのに、ちゃんと首の骨が揃っていることに感銘を受けました。」

・本多佐おり「モグラの前肢（橈骨、尺骨と手の部分）を29の部位に分解し、1つずつ袋に入れる作業をしました。特に、手根骨をバラバラにする時に緊張しました。小さい複雑で難しかったです。」

・高橋翔哉「モグラの標本作製は、非常に体が小さく細かい作業でしたが、綺麗に骨の状態にできたときの喜びも大きく、やり甲斐を感じました。」

・大原峻太郎「塩素につけるといくつかの末節骨がとれてしまい、サイズのほぼ等しい後肢の第1末節骨と第5末節骨の区別がつかなくなりました。拡大した写真を撮り、反対の肢の骨と見比べることで、根元の湾曲の仕方の大きい方が第1末節骨であると判断しました。一見同じような骨でも、小さな特徴の違いがあることが分かりました。また、その特徴を基に、どの骨なのかを同定することが面白かったです。一つ一つの骨の特徴を探ることで、よりその動物の骨格の構造への理解が進むように思います。」

最後に、モグラの捕獲に協力してくださった、永井市雄さんには厚くお礼申し上げます。